

# KANAGAWA

一般社団法人 神奈川県建築士事務所協会 <http://www.j-kana.or.jp/> email: [info@j-kana.or.jp](mailto:info@j-kana.or.jp)

# 9

September, 2017

vol. 410

## Contents

建築探訪...01

会員仕事紹介...03

旅行記...05

支部だより...07

趣味のページ...08

委員会組織運営図...09

編集者のつぶやき...10



## 建築探訪

### ロレックス・ラーニングセンター

横浜支部 小渡佳代子

著名な建築家の図面や写真の空間を、実際に訪ね肌で感じる感動を機会ある度に楽しんできた。レマン湖の畔のコルの小さな家を探訪後、ローザンヌで遭遇したこの建物は、高度な建築技術の粋を集めたダイナミックでシンプルだが繊細でやさしく、長方形だが端が見えず、楕円で切り抜かれた内部空間は、体感しないと分からない多様に变化する異次元空間でした。



1階平面図

1 設計はプリツカー賞を受賞された妹島和世氏と西沢立衛氏の共同建築事務所「SANAA」の取り組みです。竣工は2010年、これはスイス連邦工科大学ローザンヌ校キャンパスの「核」となるような多目的学習センターです。図書館、情報センター、自習空間、研究空間、レストラン、カフェなどが2万平方メートル（175.5m x 121.5m）の大きなワンルームの中に、仕切りがなく、しかもスロープによる「丘」や「谷」などの空間にゾーニング計画されている。建設費は約85億円。そのうち連邦政府が50%を、残り50%は企業が負担し中でもロレックスは25%と一番多く出資したため、「ロレックス・ラーニングセンター」の名が付けられた。

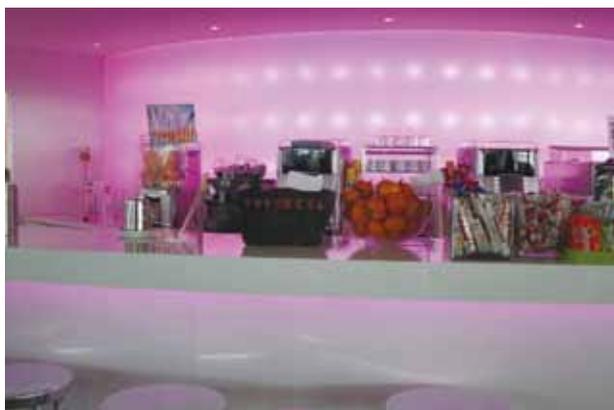


光と影に引き込まれるシェル構造

大きな影の中に吸い込まれるように向かったアーチのブリッジを抜けると、光庭の中にエントランスがある。振り返るとアーチの中にビビッドな色が見え隠れするキャンパスが若々しい。床と屋根のシェル構造を大きな楕円で切り取られた空間は、波のようにカーブした曲面を垂直ガラス面(同じ形が無い)で構成され、光が溢れる。山や公園、海や波、大小さまざまな高低差から生まれる空間。その場所からは外の山やレマン湖などが見える。遮光が必要なガラス面の外部にはルーバが設けられ空気環境も自然でこちよい。



振り返るとキャンパスが見える



間接照明で演出されたカフェコーナー

建物中央から入ると左右に大小の「丘」が開け、そこへと続く柔らかな傾斜面の床はスロープ状の尾根道のようなようです。谷の部分にカフェを配置し、尾根の始まりに図書館を設けている。反対側の風景の良い空間をレストランにゾーニング分けしているが、分かれていないようで分かれている区分けは、場所の機能や目的に応じて間接照明器具や家具を変えることで、さらに緩やかに分けられている。



スロープの上の丘はレストラン



ガラスの約83%がそれぞれ形が異なる



分かれていないようで分かれているコーナー

内部は多様なスペースが用意され、学生や教授が床に座って歓談したり、テーブルでミーティングしている。なんて自由な、開放的で豊かな、そしてのびのびした空間か。そして誰でも自由に使える場所として開放され、この建築にたいするコンセプトが感じられる。後に妹島氏のコメントで知った。「仕切りの壁を取り払ったワンルームで、各プログラムが有機的に関係するように考えた。大きな公園のイメージでもあり、そこで、色々な対話が生まれ、学生や研究者たちの自由な交流が図られたらうれしい」と話している。



スロープの平坦な部分でミーティング



玄関を入るとなだらかな丘と点字ブロック

少子高齢社会では、高齢者向けの施設や暮らし方、居場所づくりが話題になるが、人と人が自由に気持ちよく集まり交流する場所、それぞれのバックグラウンドが活かされ次世代と多様につながり紡ぐ空間はどこにあるのだろうかと思う日々です。



歩く人と同じように車椅子や荷物も移動する

## 会員仕事紹介

チーム アエオ  
 県西支部 合同会社 team AeO 一級建築士事務所 徳家 統・明美

昨年6月に設計事務所を開業し、県西支部にてこれまでもお世話になってまいりましたが、2017年7月より法人化し、合同会社 team AeO 一級建築士事務所として、リスタート致しました。どうぞよろしくお願い致します。

### 湯河原・吉浜の景観

私たちが、湯河原・吉浜へ東京・渋谷から転居したのは2016年3月のことで、この地で暮らし始めてからまだ1年半に過ぎません。

しかし、そのきっかけともなった、自邸兼事務所から望む、伊豆諸島の島影や相模灘、伊豆半島から箱根へ緩やかに繋がっていく稜線、それらの穏やかな景観と、ひたすら移り変わってゆく自然の光と影のなす様相の豊かさは、現在の私たちの暮らしと仕事にとって欠かすことのできない大切な基盤のひとつとなっています。だからこそ、その印象をイラストレーションとして、私たちの事務所のブローシュアに用いることにしました。



ブローシュアのイラストレーション

### これまでの設計案件のいくつか



イタリア文化会館(2005年)



早稲田大学33号館(2014年)



在日イタリア共和国大使館事務棟(2004年)



上原近代美術館(2000年)



吉浜の家(2016年)

### これまでの経験とそこで得たもの

私たちがこれまでに20年間以上東京の設計組織にて意匠設計者として携わってきた案件は、顧客・用途・規模共に多種多様なもので、それゆえ求められたデザインそのものもプロセスを含め複合的なものばかりでした。それらの建築を作り上げてゆく純粹な意味でのデザインワークも、知見の集合体ともいえる組織のメリットを最大限活用しながら設計全体をまとめあげてゆくコーディネーションも、今となってはまさに身体に刻み込まれた経験といえます。そしてそれは一言で言うならば、広い意味での「デザイン」に対する真摯さだと、私たちは思っています。そのことは、私たちが立場を違えてもこれからも設計に従事していく上で、こだわり続けていく原点であると考えています。

### これからの設計活動

とはいえ、生まれたばかりの設計事務所にとって、まだまだ作品と呼べるような事例は多くありませんが、私たちのささやかな活動の一部をご紹介します。

「吉浜の家」は、週末住宅であった平屋を自邸として改修したものです。外壁を取り払い、小屋組みを現しとし、さらに一定のコードで家具をデザイン・配置することで、小さな容積を少しでも自由に大きく使えるように、取り巻く自然環境と一体感のある空間としました。

「Y邸のポルティコ」は真鶴の高台に建つ住宅の玄関部分の改築です。ご夫妻が以前自作され暮らしの中で愛おしく使われていたそのアプローチの空間を、用いられていたデザインモチーフを引用しながら、母屋の南欧的な佇まいと寄り添うように再構築しました。

「H邸計画」は、現在実施設計中の、旅館、カフェとその時代にあわせて用途を変えてきた木造建築を若い5人家族のための住宅へとコンバージョンする計画です。真鶴港に近い集落の中にあって、永くまちの人々にとっての景観ともなってきた建物外観を保全しつつ、新しいライフスタイルと変化してゆく家族像にも追従するような段階的改修を実現していく予定です。

「南麻布計画」も実施設計中。都心マンションの一室の茶室的空間への改修です。茶道や書道といった、落ち着きある上質な時間を過ごすための場所として3畳の小宇宙作りに同世代のご夫婦とのディスカッションを深めています。

その他、インスペクションや県西支部を通じた耐震診断からの改修へ向けてのご相談等、ようやく設計事務所としての活動らしくなってきました。既存の空間を活かしながらの設計が多いものの、その醍醐味と社会的な意義は、四半世紀前にイタリアで学んだことが今ようやく目を開きつつあるといえるのかもしれません。

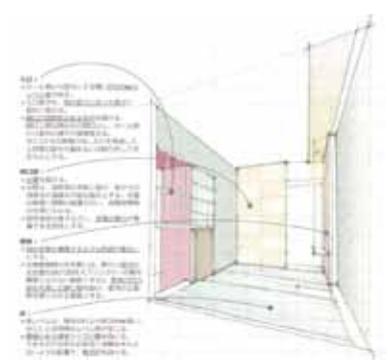
真鶴では、2017年から実行委員として「芸術祭真鶴まちな一れ」に関わっています。ArTresure Walkというツアーで、街歩きも楽しみながら、まちの中に点在する現代アートを紹介して、真鶴そのものも体験してもらおうというこの芸術祭。実は「地域」という建築的課題に通ずる問題提起の場ともいえ、この企図の根底に、日本の景観を考えていく上での先駆けとなった真鶴町まちづくり条例「美の基準」があることは偶然ではありません。

「美の基準」に記された次の言葉は、私たちが建築の設計を通して何を社会に還元できるかについて、原点に立ち戻らせてくれる示唆に富んだ貴重なものです。私たちの個人としての設計活動は端緒についたばかりですが、建築に対して常に謙虚な姿勢で設計を行っていきたいと考えています。

「建築は場所を尊重し、風景を支配しないようにしなければならない。」(「美の基準」I.場所より)



Y邸のポルティコ

H邸計画：  
真鶴港を望む景観南麻布計画：  
デザインイメージ

芸術祭真鶴まちな一れ2017の様子(コミュニティ真鶴にて)

## 旅行記

### ミラノ・ベニス研修旅行記

横須賀支部 (株)ドーム 平野 武洋

#### 1) はじめに

平成28年2月7日、よこすか都市景観協議会主催「第21回よこすか都市景観フォーラム」にて、ミラノを本拠地に活躍されている舞台演出家・演劇教育者の井田邦明氏がパネルディスカッションのコーディネーターを務められた縁で、横須賀支部創立60周年記念行事として、11月26日から1週間、ミラノ、ベニスの研修旅行が実現出来ました。参加者は横須賀支部で 古谷雄一氏、寺坂良明氏と小生の3人でした。関係者含め計6人の少人数でしたが、旅行会社のご尽力により予算内で納まり、先ずはひと安心です。少人数が故に現地でのきままなプランも可能で、「満足。」とお聞きして、ふた安心？

今回の研修旅行は雑誌等にも余り取り上げられていない「路地」「景観」を主に見て歩くことにしました。思えば、前回20年前は地図を片手に彷徨、今回はWiFi端末を成田にて借り、スマホ、タブレットのグーグル地図を見ての散策です。道に迷うことは一切無くなりましたが、その分、旅の醍醐味(スリル)が無いのも味気ない？と思う身勝手さを恥じながら、唯々技術の進歩には驚かされました。

#### 2) ミラノにて

ミラノでは組積造(石・レンガ)建物が多く、外観はクラシック装飾でありながら、洗練されたインテリアが特徴と思います。イタリア北部ではスイス国境の山脈より雨水と雪解け水を貯めてコモ湖から南下。ミラノで砂礫層を厚く形成、地震時には「天然の免振装置」とのことです。「華奢な建物でも数百年以上健在。」納得です。ミラノ再開発エリアの土羽が露呈している工事中写真が証拠です。

なお、電柱は一切無く、古い新しいを問わず、ミラノ中心市街地では公道地下に建物に一体化した「共同溝」が設けられています。街路雨水排水に関して日本では排水路が道路両端にあるのとは対照的です。イタリアでの降雨量が少ない事もありますが、夜間に歩道の格子蓋を覗くと建物内部からの明かりが漏れているのも風情？と感じます。

そして、井田邦明氏とピエール氏Pierluigi Salvadeo/Professore Associato Ph.D 両氏のご厚意によりミラノ工科大学キャンパス内の見学が実現しました。

キャンパスは街に開かれ、無粋な塀門扉など無く、面する広い歩道にはカフェがあり、一般市民にも利用されています。キャンパス内のオープンスペース

が各学部棟の間に華美でなく、心地よく配置され、光と風と緑に溢れ、そこに学ぶ有機的な空間は素晴らしいものがあります。

#### 3) ベニスにて

不謹慎ながら、ドブ川のような運河、経年劣化したファサード、傾いた建物を想像していました。が、下水道は整備され、観光客の多い表道のファサードもそれなりに多く補修されていました。建物の傾斜進行スピードは不明ですが、重い石積み、レンガ積みの建物は軟弱地盤を松杭により支持されています。松杭は腐敗せず、現在でも健在の様です。

一方、ベニスの移動手段は主に水上タクシー、水上バス、ファサードのメインは運河側にあります。今回ベニスでは路地裏散策をメインとしました。

#### 4) おわりに

この度、無理難題を快く引き受けてくれた旅行会社 国松さまと、ミラノでご案内をいただいた井田邦明氏とピエール氏にこの場をお借りして、感謝申し上げます。

ありがとうございました。



ミラノ歩車道分離部分 雨水排水側溝無し バリアフリーも容易



ミラノパティオ 雨水排水側溝無し 集水樹 入口は狭くとも、一步内部に入ると開放的な広がりのある気持ち良いパティオ



ミラノ 写真上：再開発工事中 支持層は砂礫層 写真下：オールドなトラムが現役 荷物運搬専用車両



ミラノ工科大学 写真上：左から寺坂、井田、ピエール、平野、古谷（敬称略） 写真下：街路にあるカフェ



ベニス路地 写真上：左壁レンガ組積と右壁レンガ組積石組積が混在 写真下：壁入隅に開口部とプランター 通行する人に優しい気配り



ベニス路地 写真上：レンガ組積 露出配管 写真下：レンガ組積 開口部木枠 露出配管 車が入らないので、心地よいヒューマンスケール 挨拶も自然に



ベニス路地 写真上：レンガ組積漆喰 開口部木枠と石枠が混在 配管露出 写真下：レンガ組積開口部は木枠 芸術的な曲がりが見間違えそう

## 支部だより

### 茅ヶ崎寒川支部活動報告

茅ヶ崎寒川支部長 数田 亨

茅ヶ崎寒川支部は、活気ある湘南ブロックの一員として、18名の会員で活動をしています。

主な事業として、行政への協力、本部活動への協力、支部の活性化、会員の資質の向上、親睦活動などが有ります。今年度は支部の役員も大幅に変更になりましたので、支部の活性化を最優先事業と位置付け、中でも会員増強に全体事業として取り組みたいと考えます。

行政への協力事業として、茅ヶ崎市の「たいあっぷ95推進協議会」への参画が有ります。「たいあっぷ95推進協議会」は、市の耐震改修促進計画の趣旨をふまえ、官(行政)・産(事業者)・民(市民)の協働による協議会で、当支部はその立ち上げから参加し、中心メンバーとして協力しています。

たいあっぷ95の主な活動に「建築なんでも相談」が有りますが、その相談員は当支部会員が担当しており、その相談会は毎月1回定例で開催されますが、市民からの相談の多くが住宅の耐震相談です。その相談会は無料で行いますが、

その後耐震診断、耐震改修と進展し、それぞれの事務所の業務として行うケースも、多くあります。寒川町でも、木造住宅耐震相談会を行っており、こちらも毎月1回の定例で開催しております。この相談会は当協会と寒川町で協定を結び、当協会員のみが担当する事業となっております。

更に茅ヶ崎市は、住まいに関する悩みを持つ市民に対し、相談内容を整理し、適切な関係機関団体につなぐ、住まいのポータルサイト的な役割を担う「住まいの相談窓口」を立ち上げましたが、当支部はその窓口のメンバーとして協力しております。

近年当支部は、行政とのつながりが深くなっており、その多くが奉仕的な活動となっておりますが、地道に継続することにより、市民の皆様に事務所協会を知って頂き、建築士事務所の仕事を理解して頂ければと思います。そしてそれらの活動を通し一人でも多くの会員を増強できることを望みます。

7



たいあっぷ90



耐震相談

## 趣味のページ

### 私の趣味は何ですか？

横浜支部 佐藤 恵

趣味と言ってよいのかどうかですが、今まで一番よくやってきたことは硬式テニスです。中学時代は軟式テニスをしていましたが、高校へ行くとテニス部がなく仕方なしにバトミントンクラブがあったのでバトミントンクラブへ入りました。そして大学へ行ったとき、硬式テニス部があり、しかも校門を入ったところにテニスコートがあったので何となく眺めていたら、先輩からどうせ部活をやるなら、硬式テニス部へ入れよと言われてそのままテニス部に入ることになりました。それから4年間夢中でテニスをやり、卒業後も会社がテニスコートの近くにあったので、会社の人たちと昼休みにテニスをやっていました。その後テニス部を作った3年上の先輩たちがラブフィフティーンという趣味の世界でまたテニスをやろうぜという誘いに乗り、一年おきに大学のあった福井と地方へばらまくように行っている地方と交互にテニスを開催することになり、またテニスをやり始めもう20年近

くになります。ところが最近腱鞘炎になり、ラケットを振ることができなくなってがっかりしているところです。先輩方も最近はなくなったり、病気がちになったりしていますが後輩たちが引き続き会を守ってくれているので、私もテニスができなくても会にはいこうと思っていますが、仕事の都合で行けない時があったりしてがっかりするときもあります。みんなに会うと学生時代に帰り楽しく過ごしています。テニスをやっていたよかったと思う限りです。大学の顧問の先生は80歳を過ぎてもテニスをやっておられましたので、何かに夢中になることは良い事であると最近はつくづく感じております。私の趣味はテニスかな？

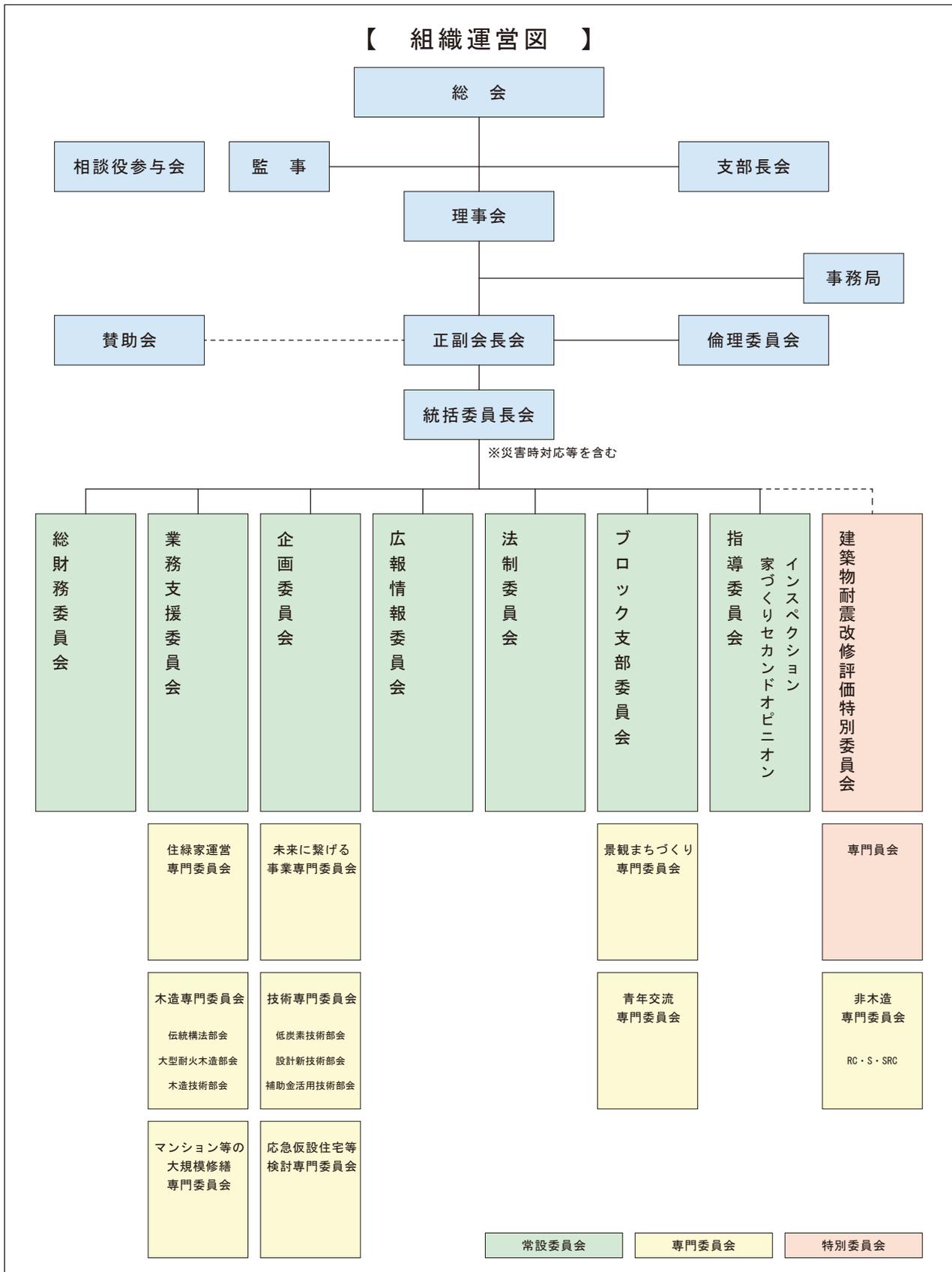


## 委員会組織運営図

※平成29・30年度の委員会組織をご紹介します。

今後、委員会活動等をお知らせしていく予定です。

会員の皆様のご協力をお願い致します。



新入会員のご紹介	
<b>7月入会者</b>	
<b>川崎支部</b>	
ANNE設計工房	佐藤 安紀子
〒225-0011 横浜市青葉区あざみ野2-35-4 カーサコスモスB-102 TEL.045-902-3740 FAX.020-4624-2856	
<b>藤沢支部</b>	
株式会社田中建設工業一級建築士事務所	田中 繁
〒251-0001 藤沢市西富707-7 TEL.0466-81-7710 FAX.0466-82-5275	
<b>8月入会者</b>	
<b>横浜支部</b>	
株式会社三光ビルサービス一級建築士事務所	灘 富志男
〒231-0005 横浜市中区本町1-3 綜通横浜ビル TEL.045-201-2846 FAX.045-201-6442	
AHC一級建築士事務所	松山 訓大
〒220-0002 横浜西区南郷井沢5-1 TEL.045-312-2002 FAX.045-312-5019	
<b>川崎支部</b>	
養清堂アーキテクト建築設計事務所	阿部 仁祐
〒216-0021 川崎市宮前区五所塚2-13-1 TEL.050-5832-7053 FAX.044-819-8282	
株式会社TENHACHI一級建築士事務所	佐藤 倫子
〒216-0005 川崎市宮前区土橋1-21-7-202 TEL.070-5588-9668	
<b>横須賀支部</b>	
コモンセンス二級建築士事務所	斉藤 三千代
〒239-0815 横須賀市浦上台2-27 浦賀団地2-243 TEL.080-1175-6907	
<b>海老名支部</b>	
マスプラスデザイン一級建築士事務所	小池 正宏
〒243-0401 海老名市東柏ヶ谷5-1-15-202 TEL.046-244-5821 FAX.046-244-5821	
<b>退会者</b>	
<b>横浜支部</b>	
株式会社住宅リフォーム神奈川一級建築士事務所	大谷 一二
日総ビルディング株式会社一級建築士事務所	社本 光生
<b>平塚支部</b>	
1級建築士事務所 水野秀明建築設計事務所	水野 秀明
<b>変更</b>	
<b>横浜支部</b>	
BX TOSHO株式会社一級建築士事務所 (事務所名称変更) 旧) 東昭エンジニアリング株式会社一級建築士事務所	
一級建築士事務所株式会社神奈川建物リサーチ・センター (所在地変更) 〒231-0023 横浜市中区山下町193-1山下町コミュニティビル3階	
東匠技術株式会社一級建築士事務所 (所在地変更) 〒235-0045 横浜市磯子区洋光台2-3-1-201	
ガリュウ建築設計事務所 (所在地変更) 〒226-0011 横浜市緑区中山町99	
有限会社オフィス・ワン (所在地変更) 〒236-0051 横浜市金沢区富岡東1-5-20 コム・ネ富岡101	
<b>川崎支部</b>	
一般社団法人建てラボ (事務所名称変更) 旧) sui建築設計	
<b>県西支部</b>	
合同会社team AeO 一級建築士事務所 (事務所名称・開設者・指定代表者・TEL変更) 徳家 統 TEL.0465-46-9736 旧) team AeO 一級建築士事務所	
<b>賛助会新入会員</b>	
<b>平成29年度入会者</b>	
田島ルーフィング株式会社横浜営業所	

会 勢		平成29年8月15日現在			
支部名	平成29年3月末日	現在	入会者	退会者	増減
横 浜	265	264	5	6	-1
川 崎	107	109	4	2	2
横 須 賀	51	52	1	0	1
湘 南 三 浦	18	18	0	0	0
藤 沢	34	36	3	1	2
鎌 倉	40	41	2	1	1
茅ヶ 崎 栗 川	18	18	0	0	0
平 塚	21	23	3	1	2
秦 野	19	18	0	1	-1
伊 勢 原	7	7	0	0	0
大 和 綾 瀬	19	19	0	0	0
厚 木	33	32	0	1	-1
座 間	15	15	0	0	0
海 老 名	16	16	1	1	0
愛 川	7	7	0	0	0
相 模 原	72	72	0	0	0
県 西	41	40	0	1	-1
合 計	783	787	19	15	4
賛 助 会 員	84	81	3	6	-3

※退会報告等の状況により会員数は常に変動しております。※入会者、退会者には支部間の異動も含まれます。

## 編集者のつぶやき

本年度より広報情報委員会の委員として活動をさせて頂く事になりました。今までは何となく目を通していた会報KANAGAWAも、作成に関わる事で、たくさんの方の活動の上に創られているものだという事を直接感じる事ができ、これからは新しい視点で本誌を見ていけるのでは?と楽しみな反面、皆様に迷惑のかからないように頑張らなければと身の引き締まる思いです。

さて最近、強風の被害として、屋台やテントが強風にあおられてしまうという事例が気になっていましたがそんな中、先日、地鎮祭にて用意頂いた紅白幕を見ると、メッシュ素材になっていました。風通しがよく、暑い日には風の通る心地よさがあり、風の強い日には風の抵抗を軽減し飛ばされにくいという機能を備えており、とても感心しました。



最近のテントや屋台には風通しの機能を考慮し、メッシュ素材にする事例も増えているようです。また、ハリケーンの被害が多いアメリカでは、大きな開口のある車庫などに開口が壊れて風の侵入があっても、屋根を吹き飛ばされないように、風抜き穴を設けておくそうです。

風通しの良さというのは、建物においてはもちろん、組織においても、何かと話題の政治においても共通で大切なあたると感じたひと時でした。

【海老名支部 仙波 弦】

## かながわ 平成29年9月号 (通号410号)

発行 平成29年9月1日 (奇数月1日発行)  
 発行人 白井 勇  
 発行所 一般社団法人 神奈川県建築士事務所協会  
 〒231-0032 横浜市中区不老町3-12 第3不二ビル2F  
 TEL. 045-228-0755 / FAX. 045-212-3807  
 印刷所 株式会社 柏苑社

- ・ 担当副会長 西倉 哲夫
- ・ 広報情報委員長 杉本 勝郎
- ・ 広報情報副委員長 相原 聡
- ・ 広報情報委員 雨森 隆子 赤川 真理 小山 将史
- ・ 清田 鈴美子 田中 敦史 仙波 弦
- ・ 石川 勝彦 神尾 明美
- ・ 事務局 久保田 千尋



---

今月の表紙

## 菊華荘（宮ノ下富士屋ホテル別館）

澄み渡る空、初夏を感じる6月末。新緑がまぶしい箱根のひととき。

菊華荘は、明治28年、皇室の宮ノ下御用邸として造営。数寄屋風書院造りの純日本建築の建物と庭園をそのまま残しており、登録有形文化財となっています。歴史を感じながら、日常から離れ、落ち着いた雰囲気の中で、頂く懐石料理は、格別でした。

---